

2009年3月期 業績予想修正について

代表取締役社長 佐藤 潔

2008年8月8日

2008年の事業環境見通し

▶ 半導体設備投資

- マクロ環境悪化の影響を受け、厳しい受注環境が続いている。
- DRAM: 需要が想定よりも弱く、市況及び投資の回復は2009年になる見通し
- NAND: 需要が弱含み価格下落が厳しく、キャパシティ増強投資は弱い。一部、4xnm向けの微細化投資は継続して見込める。
- LOGIC/ファウンドリ: モバイルPC向けMPUは力強いが、その他は低迷中。

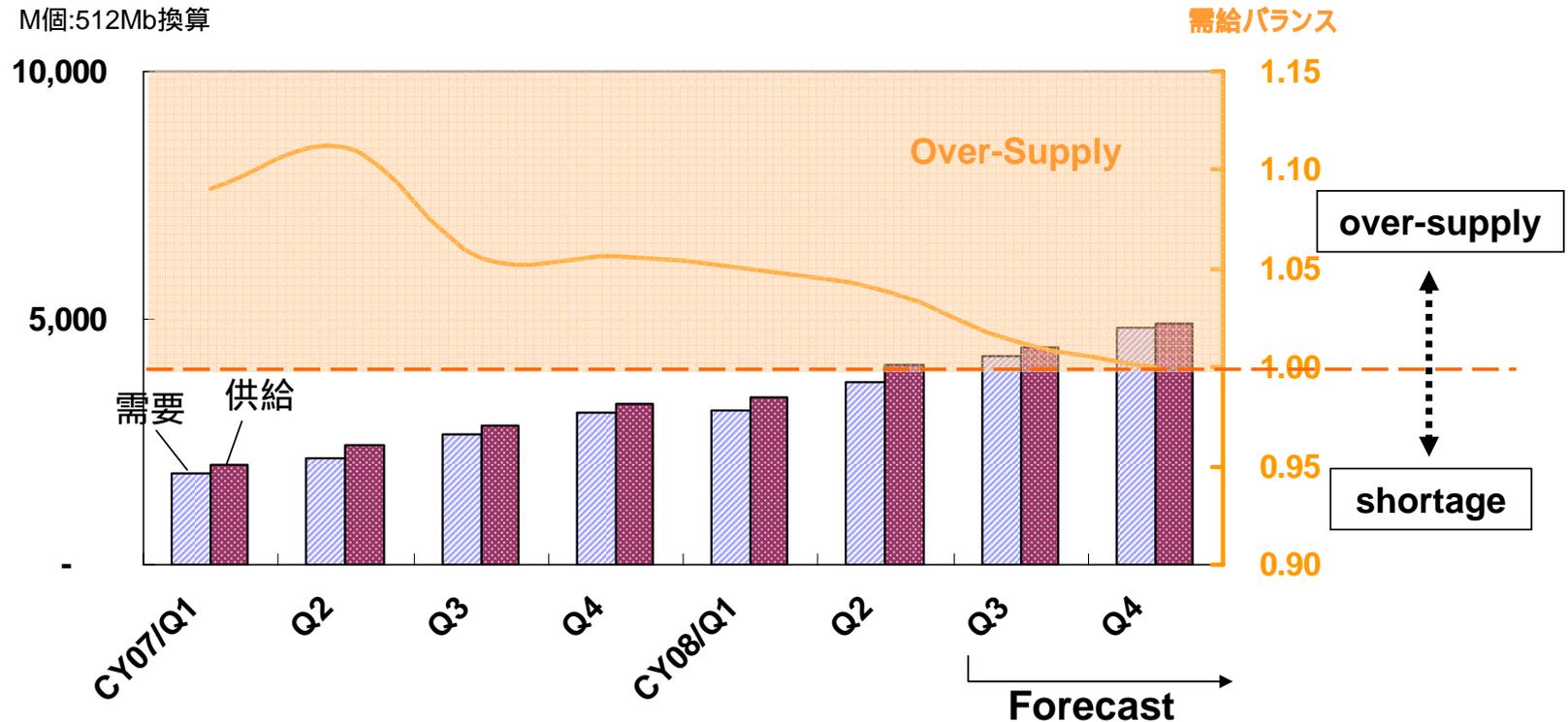
▶ FPD設備投資

- 大型TV向けパネル需要が想定を下回ったために、一部で生産調整が始まっている。年度後半からの投資案件の一部に延期リスクが出てきている。



08年のDRAM需給動向予測

M個:512Mb換算

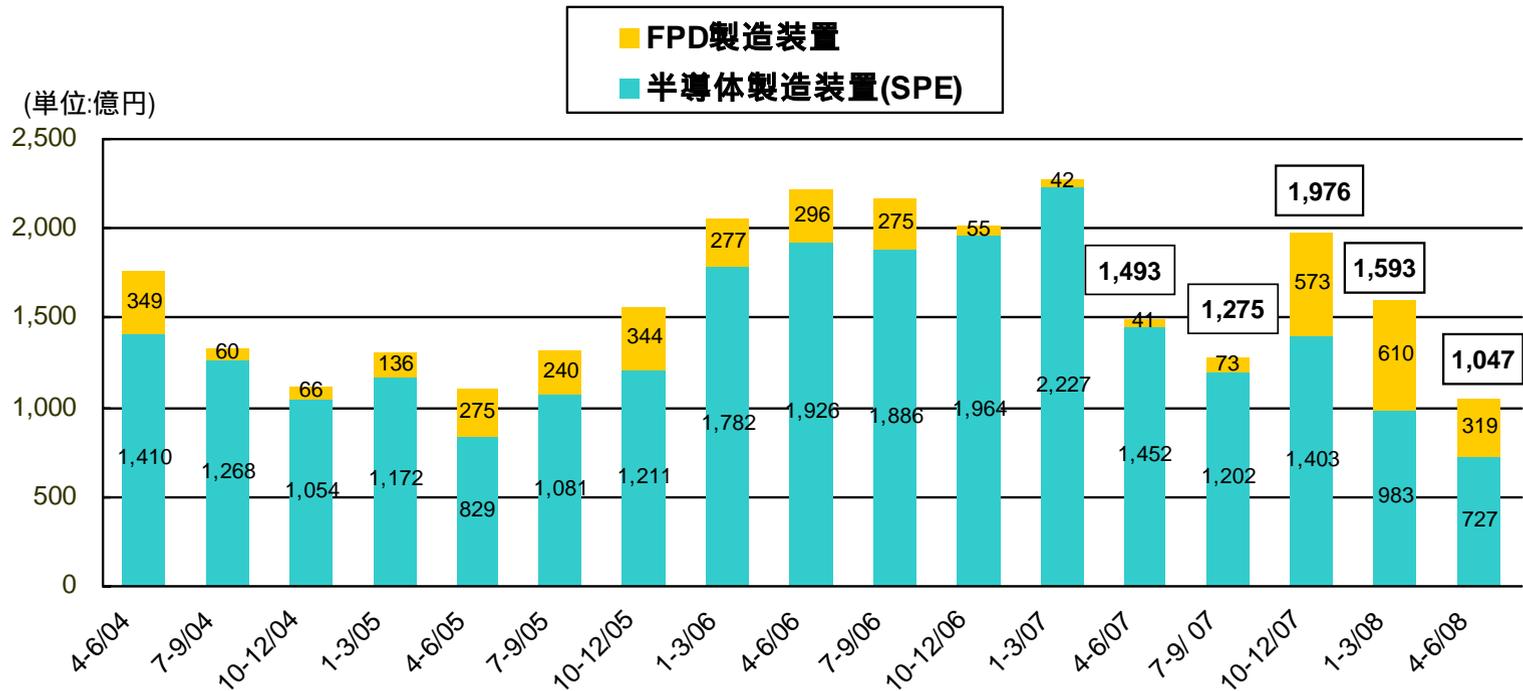


➡ 需要が想定よりも弱く、市況の回復は09年になる見通し

出所: 調査会社のデータを元にTELマーケティングにて作成



四半期 SPE+FPD受注額

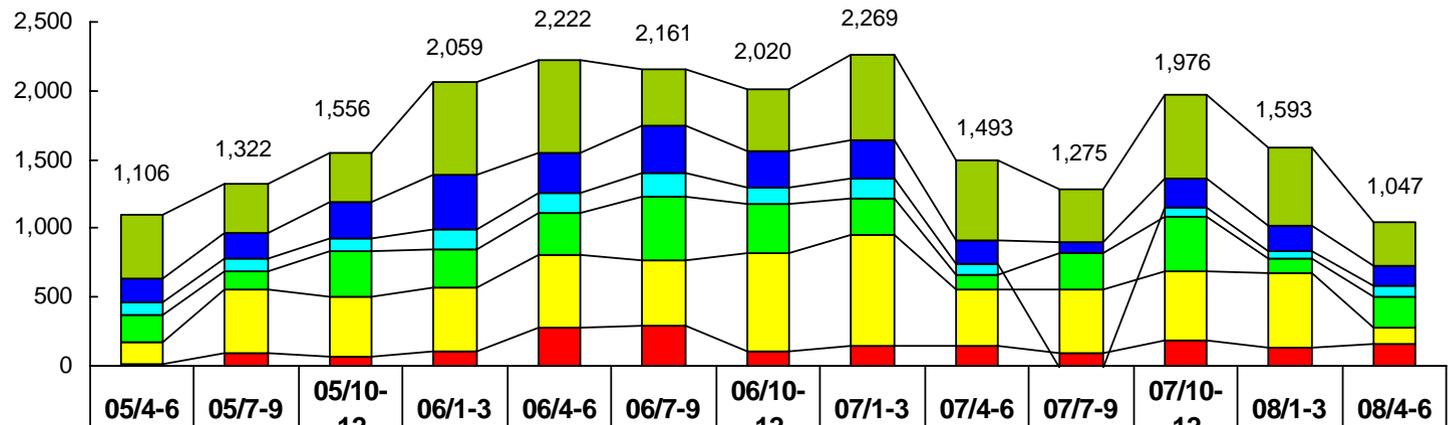


- 2005年10-12月期までは単独ベース、2006年1-3月期より連結ベース
- 単独ベースと連結ベースの主な差異：連結ベースは海外現地法人におけるポストセールス受注を含む



四半期 地域別 SPE+FPD受注額

(単位: 億円)

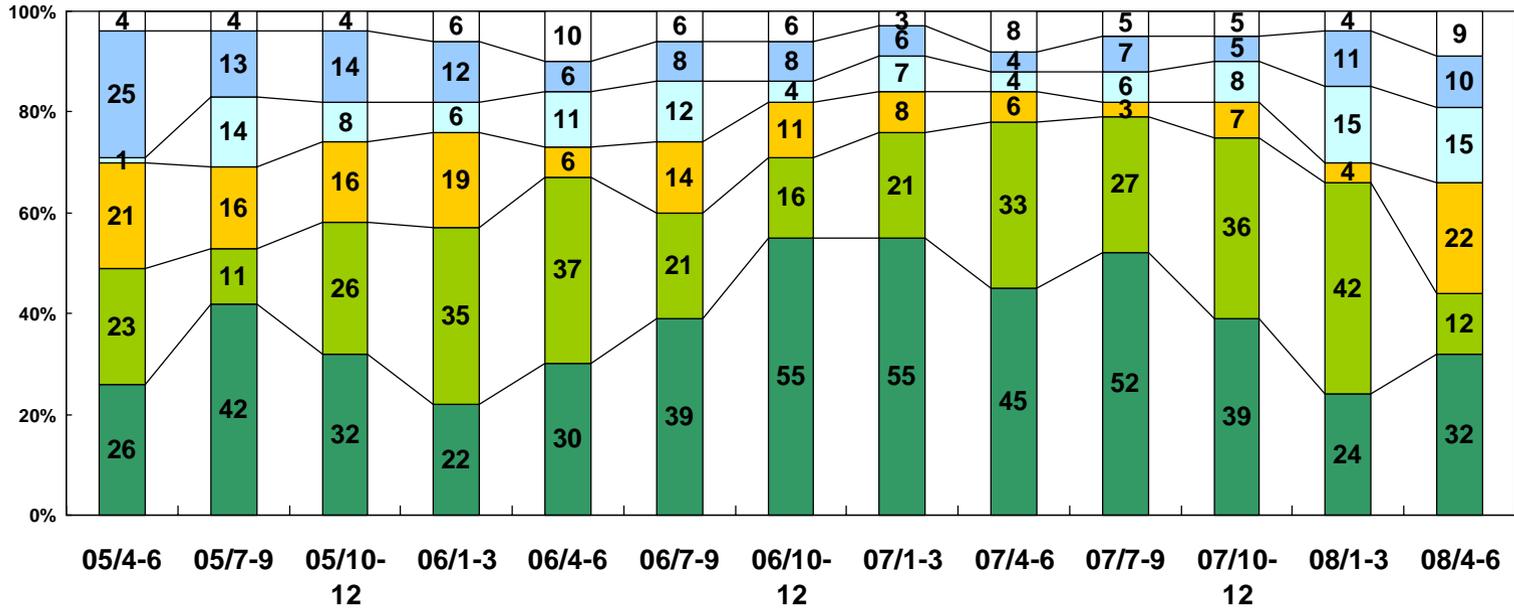


	05/4-6	05/7-9	05/10-12	06/1-3	06/4-6	06/7-9	06/10-12	07/1-3	07/4-6	07/7-9	07/10-12	08/1-3	08/4-6
国内	471	355	367	666	677	414	451	624	578	378	615	574	318
米国	169	188	264	399	285	344	264	283	172	81	204	184	143
欧州	89	93	91	139	145	175	130	149	86	-8	73	49	79
韓国	200	129	324	290	301	456	353	257	99	268	399	113	228
台湾	160	468	445	457	529	476	710	804	409	470	498	534	121
中国・東南ア他	15	87	62	106	282	293	109	150	147	86	185	136	156

●2006年1-3月期より、受注額を連結ベースで表示しています。



四半期 アプリケーション別SPE受注 (本体のみ)



- その他
- システムLSI
- ロジックファウンドリ
- MPU、ハイエンドロジック
- Flashメモリ
- DRAM

(メモリ内訳は当社推定を含みます)



2009年3月期 業績予想修正

(単位: 億円)

	2008年3月期	2009年3月期 (予想)						
		期初予想 (5/13)			修正予想 (8/08)			
		通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	9,060	3,000	4,000	7,000	3,015	3,285	6,300	-30%
SPE	7,264	2,080	2,880	4,960	2,068	2,137	4,205	-42%
FPD	680	380	520	900	410	550	960	+41%
EC/CN	1,111	535	595	1,130	535	595	1,130	+2%
その他	4	5	5	10	2	3	5	+10%
営業利益	1,684 (18.6)	260 (8.7)	580 (14.5)	840 (12.0)	225 (7.5)	285 (8.7)	510 (8.1)	-70%
経常利益	1,727 (19.1)	280 (9.3)	600 (15.0)	880 (12.6)	250 (8.3)	300 (9.1)	550 (8.7)	-68%
税 前 利 益	1,692 (18.7)	280 (9.3)	600 (15.0)	880 (12.6)	250 (8.3)	300 (9.1)	550 (8.7)	-68%
当期純利益	1,062 (11.7)	170 (5.7)	380 (9.5)	550 (7.9)	150 (5.0)	180 (5.5)	330 (5.2)	-69%
1株当たり配当金	125円	19円	43円	62円	19円	21円	40円	

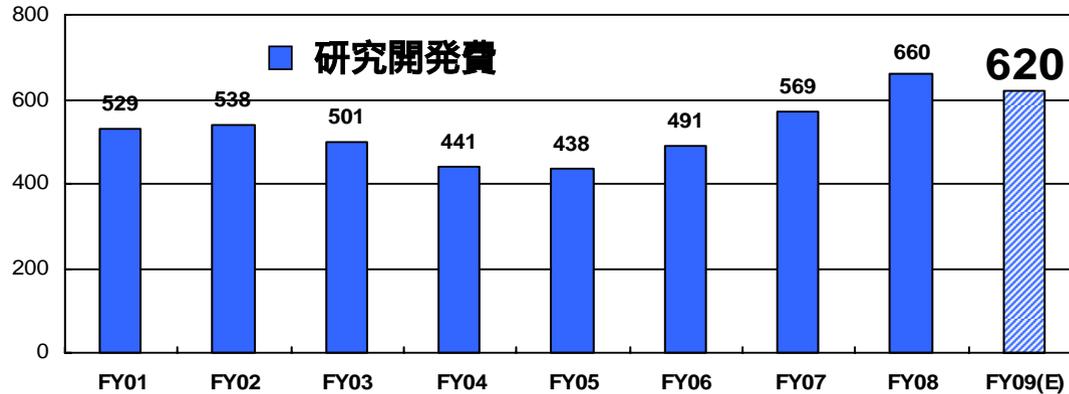
1. SPE: 半導体製造装置, FPD: FPD製造装置, EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク
2. () 内は利益率
3. 利益率及び増減率は、1円単位の金額をもとに計算しています



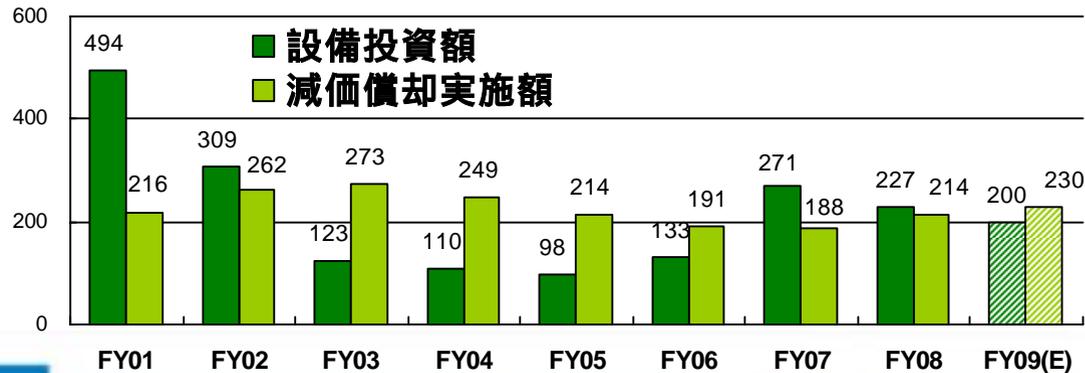
研究開発費・設備投資計画

研究開発費： 期初計画からは微減となるが、引き続き高水準を維持

(単位: 億円)



(単位: 億円)



サマリー

- **SPE事業環境**: メモリ投資を中心に厳しい市場調整が続いている。市場調整は期初想定よりも長引くことが予想される。
- **FPD事業環境**: 前年度比では高いプラス成長となるが、液晶パネルの生産調整が一部で始まっており、年度後半の投資状況に不透明感が増している。
- **当社業績**: SPEの市場調整が長引くことを想定し、連結業績予想を下方修正する。
- **事業環境の変化に合わせ**、将来の成長を阻害しない、可能な限りのコストコントロールを推進する。

